

変貌する部屋の中に

小器用にテーブルを飾りたてる

小道具は懐かしい生活の具

配置に凝り

クロス選びに時間をかけ

ここに小さな世界ができあがる

今日は小道具の代わりに

少し変わった手品をしよう

樹海をまるのまんま部屋中に敷きつめる

天文学的な樹齡の年輪を中央に据えて

原生林の一番風変わりな大木を

斜めに数回切り払い

地面に倒れた姿を大事にしながらそつと拾い上げ

窓を一寸開いて風を入れ

デフォルメに一役かっていたかく

死んだ爺さんの声がデジタルで録音された

しだ類の放つ光が

今までにないマチエールを生み出してくれる

強い日光がこの世界の裏手のさらに裏から

割り込んで画面を引き裂き

立体感のメスをつきたてて来る

蛇が一匹ゆつたりと音もなく東に流れ

画面の奥に感じ取れる幾つもの深い祠から

粉っぽい暗紫色の霧が吹き出て来る

気付いてみると

陰気な蛇の尾の鱗の下に

岩と苔が吐き出す時間の重みに喘ぎながら

座禅を組んでいるのが私なのだ

描く人もなく

この作られた静物の世界は

独り立ちして膨張を続ける